

テーマ：子どもの居場所

「とびだせ！！」 ～児童館も児童クラブも視点が変わると支援が変わる～



[講師]

中田 るり子さん 特定非営利活動法人次世代健全育成サポートあひるっこ 理事長

児童館が大好きすぎて平成17年に故郷のような児童館を作りたいと同法人を立ち上げ、宇福寺児童館をはじめ、児童クラブ、ファミリー・サポート・センター、支援センター、一時預かりなどを運営

みなさんには何がみえていますか？子ども達の未来をどう見据えていますか？

子ども達は公園で自由に遊ぶこともできますが、児童館や児童クラブという館（やかた）の中に支援者がいることに大切な居場所としての意味があります。ですが、さらに館の外にとびだしてみませんか？とびだすことによって視点が変わると新しい支援の在り方が見えてくるはずです！

自分の地域すべてを子どもの居場所ととらえアウトリーチの活動をお勧めします。自分の地域ではなにができるのだろうか？ みんなで事例から考えて話し合い、新しい1歩を！！みんなととびだそう！！

1. アイスブレイク 「オー！ゲーム」

講師の出した「〇〇に当てはまる人！」という条件に該当する参加者は、オー！と声を上げ、こぶしを高く上げる。これを条件を変えながら何回か繰り返し、リラックスした雰囲気を作った。

2. 講師講話

「ルビンの壺」という有名な図形は、同じ図形を見ているにもかかわらず、人によって「向かい合った人の横顔」、または「大きな壺」に見える。

また、「一水四見」という言葉がある。同じ水を見ても、鳥にとっては餌場だが、魚にとっては住み家というように、見ている主体によって物事の解釈は変化する。

これを児童館や児童クラブに当てはめてみてください。

それぞれの子どもが一生懸命生きている中で、大人の都合で考えるのではなく、子どものために、子どもの視点で考えて欲しい。

児童館にはさまざまな子どもが来るが、ルールを守ってくれる子、くれない子がいる。また、家庭の状況によって、飲み物をもってこられる子もいれば、持ってこられない子もいる。

さまざまな子どもがいる中で、飲み物がなくても児童館を楽しみにしてきてくれる子ども達に寄り添えるように、私の児童館ではボランティア活動をすることによってお茶がもらえるというルールを作っている。誰かが脱いだままの靴をしまおうとお茶がもらえる。こうすることで靴の場所がわからなくなってしまい、職員への負担が増してしまう部分もある。しかしこういった方法をとれば、子どもたちにルールを守る意識付けをしつつ、飲食の手配のできない子どもへのフォローも行うことができる。

更に、視点を児童館の中から外へ広げてみてほしい。

私の児童館には駐車場が2台分しかないためすぐ埋まってしまう。そのため、保護者が車で子どもの送迎を行う際に苦労していた。

そこで、児童館の周りに目を向けてみると、児童館の近くには大きな駐車場がある。勇気を出して、駐車場の所有者に掛け合ってみたところ、快く利用を許可してくれた。利用時間が重ならず、今ご厚意で利用させていただいている。

児童館の近くには小学校もある。

コロナ禍で児童館活動を自粛せざるをえなかった時期、児童館として何ができるかを考え、学校のボランティアとしてお手伝いをした。普段からの子どもとの繋がりがあり顔も見知っているため、学校に出向いて手洗い補助や1年生下校の付き添いを行った。こういった経緯もあり、現在この小学校のコミュニティ・スクールにも運営協議

会会長、コーディネーターとして参加している。

その他、様々な学校行事にも来賓やボランティアとして参加することによって、保護者や子どもが見慣れた私を見れば安心してもらえるし、学校とも良好な関係が築けている。

うちの児童館では飲み物はもちろん、おやつやゲーム、カードの持ち込みもある程度認めている。普通の児童館であれば、禁止になっているものも多くあると思う。施設を管理する上ではそうしてしまう方が楽であり、持ち込みを認めるも職員にとっては非常に大きな負担となってしまう。ではなぜ認めているかと言えば、放課後は子どもたちに自分たちの責任のもと、自分たちがやりたいことを見つけてほしいという思いからだ。子ども達がありのままのやり方で、楽しみや苦勞を体験してほしいから持ち込みを認めている。

また、児童館の行事に児童館祭りがある。これまでの関係から小学校にご協力いただき、学校敷地内で実施している。校庭など様々な場所でイベントを行っているが、体育館での盆踊りに力を入れている。全国でも振付難易度の高い「北名古屋音頭」を目玉に、市長も巻き込みながら盛大に実施している。

こういった活動には児童や大人がボランティアで参加してくれていることもある。私が参加している「子ども食堂」には、昔母親の介護をしていた、今でいうヤングケアラーだった子が、大人になってから参加してくれている。その人は特に子どもが大好きという雰囲気ではない。それでも参加してくれているのは、おそらく子どもの頃を取り戻したいのではないかと考えてくる。18歳を超えても大人になり切れていない部分を持つ「こども」を受け入れてあげるのも、児童館の役割ではないだろうか。

また、ネグレクトを疑われるような子どももいる。親の特性等で必ずしも該当するものではないが、身なりや食事がいきわたっていないのではと疑われるケースもある。児童館利用者の中に、もともと体が弱い子がいる。児童館に登録してもらっているの親との面識もあるが、そういった傾向があるため見守りを続けていた。うちの児童館では「ランチタイム」を設けており、お昼にお弁当を食べることができるが、あまり

に偏った内容のお昼ごはんだったため、母親に連絡を取り指導をしたこともある。その他、親が衣服等に配慮できていなかったが、児童館が協力や指導をしながら、なんとか改善してもらうことができた。

そこまでやる必要があるのか、と思われた方もいるかもしれないが、私はそうやってこれまで児童館を作り上げてきた。

講師紹介にもあるとおり、私は児童館が好き過ぎて、子ども達がどう育つのか、子どもたちのふるさとをどう作り上げていくか、という思いがそこにはある。

視点を変えれば概念が変わる。

視点が変わることで、支援が変わるかもしれない。今までの方法や場所にとらわれず、子どもの視点で考えてみれば、新しい子どものかかわり方が見つけられるかもしれない。

3. アイスブレイク 「妄想自己紹介」

- ① 市町村（児童館名）
- ② 名前
- ③ もし宝くじが当たったら何したいですか

今からグループワークをするメンバーで行う。

4. 個人ワーク

自分の児童館の周りに何があるのか地図を書く。

5. グループワーク

個人ワークをふまえ、児童館、児童クラブに新しい『イノベーション』を起こすために、こんなふうになったらいいよねという夢物語でもいいから、みんなでアイデアをだし合う。

今までは児童館や児童クラブだけが背景だったかも知れないが、そこを飛び出して妄想してみる。どんなイノベーションでも、幾つでも一つでもいい。概念を打ち破って

ほしい。

グループで話し合った中で、何が一番かというグループの売り、今まで出来なかったけど、こんな事が出来たらいいなというイノベーションを決めて、これが一番やりたんだということを書く。

6. シェア（発表順）

グループB

『ドキドキわくわくする児童館』

児童館の周りには、飲食店、公園、図書館、老人施設等があるので児童館の外へ出て散歩したり、交流したり、おいしいもの食べることができる。

グループF

『地域外の児童館との交流』

いろんな情報や協力してくれる団体、職員、他の児童館同士の共有、プラットフォームみたいな連合掲示板があったらいい。



グループD

『子ども主体でやれる児童館』

どの児童館にもルールがある。子ども達は窮屈に感じているかもしれない。児童館の隣には、小学校、中学校、公園、消防署、交番、図書館があるので、それらとの地域交流出来たらと思う。

グループC

『児童館の自由度を高めたい』

児童館の中ではスマホや飲食が出来たり、児童館の外周では、複合施設の中に児童館や、敷地内に公園、施設を活用しているような行事をしたい。

グループA

『児童館があつての居場所。』

こうなったらいいな!』

児童館の周りには、学校、商業施設もあるので、活用し、地域交流として子ども食堂みたいな事が出来るといい。また、児童館内で児童クラブも行っていると利用数が多く来館しても遊べなかったりもする問題点もある。

グループE

『行政機関、地域交流とのコミュニティを深めてみんなで作る児童館』

もっと児童館の事を知ってもらいたい。興味を持ってもらい来館者を増やすために、近隣にポスターを掲示させてもらったり、公共機関をお願いしてPRさせてもらう。職員不足の問題もあるが、地域の方と連携して、児童館に遊びに来る子どもや地域の子ども達を見守ってあげたい。



7. 講師総評

発表に行き着くまでには小さな情報交換があったと思うが、その中で、今まで出来なかったことが出来るようになる。やらなかった事がやれるようになるかもしれない。今はプラトホームを築くのは時間がかかるかもしれないが、市内や隣の市と共同して、元スイッチon!!のような繋がりも大事にして、話し合いの中で共感できたり、考えて気づいたりすれば、アップデートされる。児童館は危機に面しているので、どれだけアピール出来るのか存在価値を示せるのが大事になっている。今日の話聞いて、みんなで話し合い、館だけではなく、児童館や児童クラブの周り、地域資源を活用しながら何が出来るのか、子ども達には子どもの主体性、大人が楽するためではなく子どものためにやる事が一番大事だと思う。

《『ひび割れツボ』のお話の紹介》

私たちは皆、それぞれユニークなひび割れを持っている。完璧な人はいない。みんなひび割れ壺である。あなたのひびがあるおかげで、ひびが水をこぼしてくれるのだ。あなたはひびを責めますか。

私たちはよく子どものひびを責める。遅いと早いと。でも子ども達をよくみてほしい。この子はゆっくりの観覧車、この子はハイスピードのジェットコースターだ。観覧車を早くまわしてジェットコースターをゆっくりにしたら、世の中から面白いものはなくなってしまう。結局、与えられた使命に感謝することが重要なのだ。まるでそれが罪であるかのように言われる私たちの欠点、子ども達の欠点も、それがあからこそ誰かを幸せにできる特徴なのだ。自分を責めてはいけない。あなたのひびは必ず誰かに水を与える。あなたのひびは必ず何かに輝きを与える。その誰かを探ること、その何かを探ること、それが私たちの仕事なのだ。

大人の私たちにできることは、その子にしかないひび割れのために、花の種をまいてあげること。どうしたら花を咲かせることができるのかを一緒に考えよう。そのために、彼らは私たちの所にやってきたのだから。

子どもの意見を私たちが行政に届けるんだ、社会に届けるんだ、それぐらいの気持ちで今日みんなが話し合ったことを、少しずついいので一歩ずつやれることからイノベーションを起こして、新しいことを子どもたちにやってあげてほしい。

8. 担当者より

今までは児童館、児童クラブという館の中にいたと思います。館に留まらず、一歩外へ飛び出したら、グループワークを通して概念が変わり視点が変わったのではないのでしょうか。先生のお話の中にもありましたように子ども達のために、やれることからやってみる。できるかできないかではなく、やってみるかやってみないか自分達のためにかもしれません。

失敗しても、やろうという気持ちで日々過ごす方がワクワクすると思います。

第2分科会

テーマ：ICTの活用

児童館でのあそびにICTを取り入れるためには？

[事例発表] 酒井 幸子さん 社会福祉法人檸檬会 豊山町北館さざんか児童館 主任

近年学校で取り入れられているタブレットなどのICT。児童館でも導入したい！でも実現って難しい。このように感じたことはありませんか？どのようなあそびができるのか、どのようなルールが必要なのか、職員の不安を取り除くには等、実現しようとする問題点が多く、導入が後回しになってしまうことがあるのではないかと思います。そこで、実際にICTを取り入れている児童館の事例を聞き、グループワークを通して子どもたちのあそびや居場所がより充実したものとなるよう、一緒にヒントを見つけませんか？

1. アイスブレイク 「名前を覚えるアクティビティ」

ねらい：
グループ全員の顔と名前
一致させる。

各グループのメンバーの氏名を順番に紹介していくゲーム。ルールは、1番目「Aです。よろしくお願ひします。」、2番目「Aさんの隣のBです。よろしくお願ひします。」と繰り返し名前の紹介をしていく。最後に1番目の人は自分の名前始まり自分の名前1周したら終了。1回目は「名前」、2回目は「名前と所属の市町村名」で行った。

2. 概要

【ICTをテーマとした経緯】

小中学校の教育現場や家庭では、ICTの環境整備が加速している中、学童保育においてもタブレットの導入など少しずつではあるが、今後児童館でもICTの需要が増えてくると予想される。そのためにはどのようなルールが必要なのかなど、子どもたちの

あそびや居場所がより充実したものとなるように、参加者の方々と一緒にヒントを見つけていきたいと考えた。

【ICTを導入・活用する上での課題】

- ① コスト面
(タブレットなどの端末の導入費、維持費、管理費など)
- ② 運用面
(ICTを活用した遊び方、運用ルールの作成方法がわからない)
- ③ 職員のモチベーションや不安
(ICTをを使いこなせるか、理解が難しい、モチベーションの個人差など)

以上の3つが課題であると考えた。コスト面は、各市町村の財政状況によって異なるため、今回の分科会では省略する。運用面と職員のモチベーションについては、グループワークや事例発表を参考に考えてもらった。

3. 事例紹介 「こまきこども未来館」

【施設紹介】

- ・「YouTube」に掲載されている施設紹介の映像を見た。
- ・令和元年11月7日、(仮称)こども未来館デジタルコンテンツ等制作に係る連携・協力に関する協定を、近隣の3大学(中部大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)と締結している。各大学の持つ学術研究成果や学生の柔軟なアイデアを活かしたコンテンツの制作を行っている。
- ・「未来リテラシー(未来を切り拓く力)を育む」をコンセプトに子どもたちの好奇心や探求心を刺激する様々な遊びや学び、交流の場を提供している施設。
- ・デジタルラボや体験ひろば、未就学児を対象としたボールプールや「AR砂場」など小さな子どもでも安心して遊ぶことができる。

【デジタルラボ】

体を使って遊びながらデジタル技術を利用した双方向型の新しいあそびを体験することができる。実行委員が実際に体験したデ

デジタル遊びを2つ紹介した。

○ バルーン

プロジェクターから壁に映し出された映像に触れると、上部にあるセンサーが反応し、映像が変化するデジタルコンテンツ。風船に触れると中から紙吹雪が飛び出したり、花に触れるとニンジンが出てくる仕掛けになっている。小さな子どもでもわかりやすく、映像の変化を理解することができ、体を動かしながら楽しくICTに触れることができる。

○ ひよこ対戦ゲーム

プロジェクターから床に映し出されたひよこをめぐらせて、センサーが付いているパケツを振ることで床のひよこの色がパケツの色に変わる。色が変わったひよこを自分の陣地に引き寄せ、自分の陣地に入れたひよこの数を競うゲーム。複数人で遊ぶことができ、ひよこを集めて競うゲーム性もあるため、子どもから大人まで一緒に楽しむことができるデジタルコンテンツ。

4. グループワーク①

テーマ：

「ICTを児童館に取り入れることによる メリット、デメリット」

個人で意見を出した後、グループで共有した。その後、3つのグループが発表し、分科会全体でも共有した。

メリット

- ・ゲーム感覚で子どもたちが興味を持ちやすい。
- ・異年齢でも一緒に遊ぶことができる。
- ・玩具では買い替えが必要だが、アプリを入れるだけなのですぐに導入できる。
- ・動画等を活用すると、料理や工作など講師がいなくてもレクチャーできる。
- ・1回の検索で様々な事項がヒットし、知らないことに挑戦する気持ちを育める。
- ・子どもの得意分野の開拓
- ・中高生も楽しめる。
- ・友達になるきっかけができる。

デメリット

- ・実体験が少なくなる。
- ・子どもの方が扱いが上手で、大人がつい

ていけるか不安。

- ・職員間の共有が難しい。
- ・ルール決めの難しさ。
- ・想像力が乏しくならないか。
- ・人との関わり方が学べるのか。
- ・やり直しがきくから次から次へとやってしまわないか。



5. 事例発表

「豊山町北館さざんか児童館 主任 酒井幸子さん」

【ICT導入の目的】

① 活動の深まり

- ・「デジタルネイティブ」と呼ばれるほど、生まれた時からデジタル環境の中で育っている子どもたちの探求的な姿を育む。

② 保育の引き出しの1つ

- ・子どもの経験をより主体的で対話的にするための使い方を示したい。
- ・遊びや暮らしの体験の中のとじた瞬間に生まれた子どもの疑問や思い・つぶやきを支え、探求を深める道具の1つとしてICTを活用できることを期待した。

【保育者のICTスキル向上に向けた取り組み】

- ① 法人にてICT活用に関するプロジェクトを立ち上げ、数園で先行して取り組み、課題や可能性を議論、検証し、ICTのガイドラインを作成。

- ② 当館でもガイドラインをもとにした法人のオンライン研修を受講し、2023年7月より、児童館や学童保育を利用する子どもたち専用のタブレットを導入。

- ・ガイドラインや研修での学びもあり、職員は特に戸惑いなく導入することができた。

【運用上のルールやガイドライン】

※ 社内資料のため、抜粋して公開。

◎ 重要ポイント

保育者の役割を理解したうえで、ICTを導入すること。

機器

- ・「iPad」、プリンター、マイクロスコープ、スピーカー、モニター、HDMI変換アダプターが推奨されている。

セキュリティ

- ・閲覧制限をかけたタブレットが支給されている。
- ・ロック画面のパスコードは子どもに伝えず、職員のみで管理している。
- ・パスワードを職員のみが管理していることから、不正サイトへのアクセスなどのリスクを減らす対策になっている。
- ・写真などのプライバシーの取り扱いや家庭への理解を深めるため、職員や保護者への共通理解をはかる文章なども本部より共有されている。

ルール

- ・保育者が一方的に決めるのではなく、子どもたちとの対話の時間を作って話し合い、一緒に決めることで子どもたちが約束を守ってくれる。
- 例) 独り占めをしない、プリントするのは1人1枚まで、低学年の子が操作に困っていたら高学年に聞くように呼びかけなどがポスターに掲示してある。
※ 子どもたちなりに想定される課題にルール付けをしている。

【現場で起こる疑問や課題】

関連する図鑑がないため、「iPad」のインターネットで調べて良いか。

→ ◎ 「道具」の1つであるという意識が大切。

- ・図書館に図鑑を見に行ったり、オリジナルの図鑑を用意しても良い。可能性を広げ、保育をより豊かにするために、ICTの使い方がカギとなる。

子どもが気になる「YouTube」を見ても良いのか。

→ ◎ その子が「YouTube」で「何を見たいか？」が大切。

- ・見ることが目的の場合は、テレビやゲームと同じのため、子どもの探求

的な活動ではなくなってしまう。

- ・子どもの興味や様子をよく見て、「iPad」という道具を保育者がどう活かせるのかデザインしながら対応的に関わる。

ぬり絵アプリでぬり絵をして良いのか。それとも紙で印刷したものが良いか。

- ◎子どもの様子を見ながら、本物に触れる機会を十分に保証する。
 - ・紙の良さ→本物ならではの感触や素材に触れる楽しさを味わえる。
 - ・デジタルの良さ→絵を描くことに苦手意識がある子には、展開や深まりに繋がるツールになる。

【保育×ICT】

- ・保育者が特に意識したいことは「ICTは引き出しの1つ」であり、「道具として使う」ということ。
- ・玩具の導入時に、そのまま玩具を出すのではなく、玩具の面白さや使い方を保育者が十分に理解したうえで取り入れる必要があるが、ICTも同様に、子どもが何の興味を持ち探求したいのかを見極め、保育者による適切なアプローチが大切。
- ・当館では、タブレットを使用したいときは、職員が子どもに「何に使用するのか」目的を確認している。

【1年間で行ったICTを活用した

実践例】 ※（）は使用アプリ

- ・「My図鑑」：「LaQ」や「カブラ」、工作など残しておけないものを写真に撮り、アプリ内で図鑑を作る。子どもの作品を集めて年2回展示会も行った。（「My図鑑」）
- ・作曲：夏祭りのBGMを作曲する活動時に、ギターやドラムなどの楽器で作曲をした。（「ガレージバンド」、「SongMaker」）
- ・観察：「カトムシは夜何をしているのか」と子どもの興味関心からヒントを得た。飼っているイモムシがさなぎや蝶になる様子を撮影した。（マイクロSCOOP、タイムラプス）
- ・動画編集やスライドづくり：学童保育に入る1年生に向けて施設内の説明動画を

子どもたちが作成。原稿、カメラワーク、演技指導など試行錯誤しながら5分間の動画を作成。（「Keynote」、「iMovie」）

【ICTの身近な活用方法】

- ・ストリートビュー：友達と遊びに行くときの待ち合わせ場所の確認。
- ・スロー撮影：「カブラ」を崩す時。
- ・逆再生動画：紙飛行機を投げたり、けん玉をする時に撮影。
- ・メモ機能：字が汚いと言われてしまった子どもからの発案。メダカのお世話の餌やりの注意点や当番表のポスター作成。
- ・手書きで「QRコード」の作成：手書きで作成し、読み込めるのか。
- ・工作や折り紙、「LaQ」の作り方を調べる。

【児童館におけるICTと保育の未来】

- ・児童館は、ICTを活用することで子どもたちのあそびと学びの場としてさらに進化していくことが期待される。
- ・保育の現場で大人の戸惑いはあるが、子どもの活動に制限がかからず、最善の環境を作りながら保育者自身も学び続けていけると良いのではないか。



6. グループワーク②

各グループでICTで遊ぶことができる3つのアプリを体験してもらった。逆再生動画と作曲体験はタイトルも考えていただき、作成したものを他のグループと交換して共有した。

【3Dホログラム】

- ・装置をタブレットの上に置くと、写真が立体に見える。

【逆再生動画】

- ・動画撮影をし、画面録画をして動画の最後の部分から最初までスクロールする。スクロールさせるスピードで動画の再生スピードを変化させることも可能。

《参加者が作成したタイトル》

- ・「もとどおり」
- ・「いったりきたり」
- ・「七転び八起」



【「ガレージバンド」で作曲体験】

- ・ギターやドラムなどの楽器を1つずつ録音して音を重ねて作曲していく。声を録音することも可能。

《参加者が作成したタイトル》

- ・「かえるの危機」
- ・「LOVEICT」
- ・「がんばってBBBB」

7. 担当者より

第2分科会では、教育現場でもICTの環境が進んでおり、児童館でもICTを活用した在り方を検討され始めている中、子どもたちのあそびや居場所がより充実したものとなるようにヒントを一緒に見つけられたらという思いから、今回の分科会を開催しました。実際に活用されている児童館の方から、導入方法や、ルール作成、実施方法など具体的な内容を知ることができました。また、ICT（「iPad」）を実際に体験することができ、現場で試してみようと思えたのではないのでしょうか。ICTを子どものあそびや興味関心に寄り添うことができる道具の1つとして、より豊かで充実した毎日を送ることができるよう、子どもたちと一緒に考えていくことが大切だと感じました。

テーマ：子どもの権利

子どもの思いを尊重する



[講師]

原 京子さん 一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA 理事

2001年、「子ども参画」をミッションにNPO設立。2008年より名古屋市児童館館長。2013年、子どもの権利を柱に子ども参加で運営する児童館、「石巻市子どもセンターらいつ」の運営基盤づくり支援。2014年から2016年まで施設長を務める。2016年5月伊勢志摩市民のサミットを機にこどもフォーラム設立。「子どもアドボカシー」を日本に取り入れるための普及啓発活動に取り組み、有志で2020年一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA設立。

[事例発表]

山田 りかさん 愛西市永和児童館 館長

子どもたちの気持ちは、話しをしないと分かりません。「みんな違っていいんだよ。そこが素敵なところ！」と声をかけると「そうなんだ！」とにっこり微笑むことがあります。その気持ちがなかなか伝わらない場面がありませんか？「自分の気持ちを伝えていいんだよ。」「気持ちを聴きたいな。」子どもの権利について振り返ってみませんか？

1. アイスブレイク

積み木自己紹介

- ① 好きなもの
- ② 職場の市町村名
- ③ 名前の苗字の順番に自己紹介をする。

「〇〇が好きな〇〇市の〇〇です」次の方は、「〇〇が好きな〇〇市の〇〇さんの隣の〇〇が好きな〇〇市の〇〇です」と積み木のようにグループで自己紹介を積み重ねていくゲームを行った。

2. 講師のおはなし

《子どもの権利の視点での子ども観にアップデートしていこう》

子どもは尊厳を持った一人の人間である。第2次世界大戦後に世界人権宣言の中で、

自由、尊厳、平等を守る、世界的ルールが宣言されたが、これは大人だけのものではなく、子どもも含まれている。人権とは何か、自分らしく、自分のいろんな考えを持ったり、いろんな自分の意見を発言したり、自分になりたい自分になっていける。それを保障するものである。子どもが尊厳を持った一人の人間だということをインプットしてほしいと思う。願いとして、子どもの権利、子どもの権利条約を文字だけで理解しているのではなく、自分の言葉や行動にできるようになってほしい。子どもに人権ってなに？と聞かれると説明に苦労するが、自分らしく自由に考えたり、発言したり、そういうことができる権利をみんなは持っているんだよと説明する。子どもの権利条約とは子どもの人権を保障するための条約であり、子どもも大人と同じ尊厳を持った一人の人間である。尊厳を傷つけるような事をしてはいけなく、自分の子どもであっても別人格を持った権利行使の主体者なので大人、親だからといってその子が嫌だということを聞かずに、これが正しいと勝手に決めず、子どもの声を聞き、対話をしながら決めていくことが大切にな

る。子どもの権利条約を基にした子どもに対する捉え方、子ども観を理解してほしい。ヤヌシュ・コルチャック先生の言葉で「子どもは今を生きているのであって、将来を生きるのではない」「子どもは生まれた時から人間である」というものがある。大人は子どもの将来の事を良かれと思えてしまう傾向があるが、ピーピング、今が大切であり、ピカミング、将来が大切ではない。今を保障されなければ、将来、未来はないということを認識してほしい。

2016年、児童福祉法改正で第1条に児童の権利に関する条約という言葉が入った。ガイドライン改正もあり、現場に子どもの権利を取り入れることになった。2023年4月こども基本法が施行され、第1条に児童の権利に関する条約の精神に則りという言葉が入り、第3条では子どもの権利条約の基本原則が入っている。基本原則に基づき子どもと関わり、言葉がけ、行動をしなくてはならない。子どものために何がもっとも良いかを考え、幸せに成長できる社会を実現する、「こどもまんなか社会」という子どもの立場に立って考えていこうということかと理解している。

子どもの権利条約の中には、生きる、育つ、守られる、参加する権利がある。そして、生きる、育つ、守られる権利を考えると子どもも参加する権利である子どもの意見表明権を大事にして考えることが大切。児童館としては育つ権利が大切だと思う。児童館は子どもが遊んで育つ場所。遊ぶ権利とは何かを理解してほしい。私たちは児童館職員として子どもの声を受け止めて、その声を生かす事に取り組み、どうつなげていくのが大事になってくる。児童館は子どもが利用する施設であるので、子ども達の声を活かし、参加する権利、意見表明する権利をどう保障していくかということを考える時期にきている。



児童館は子どもが使う場所なので、大人だけでルールを決めるということはない方がいい。子どもと一緒にルールを決めていくような児童館になってほしい。このことを自分たちが意識し、職場に入っているだろうか。頭の後ろの方に4原則をおいてほしいと願っている。

3. グループワーク①

児童館で子どもの権利を阻んでいるものは何か？

子どもの権利を実現する、保障するものを阻んでいるものは何か？

- ① 子どもの安全などを尊重しすぎてうるさい大人が多い。大人にとって都合の良いようにルールが色々決められている。子どもは時間がない。人と比べられることが多く、自信がない子どもが多く感じる。
- ② ルールが多すぎて、子どもがやりたい事ができない。子ども達の事を考えて言っているんだよという大人の考え方が子どもの権利を阻んでいる。
- ③ 大人が批判や評価をするのをやめるだけで子ども達の関係が変わってくると思う。
- ④ 公園などに遊びの制限があり、遊ぶ場所がなくなってきたり。
- ⑤ 子どもに関わる職員の数が少ない。けいこ事に関して、本当にやりたい事なのか。子どもは今を生きていて将来を生きているのではない。子ども達のためにと、これは将来じゃなくて大人の都合のしわ寄せになっている。
- ⑥ 大人が責任逃れをするために、いろいろなルールを決めてしまっている。大人が教えてあげなければと上から目線になり、先回りしたり、価値観をおしついたり、子どものためだと思って言っていることが本当に子どものためなのか。

4. 講師のおはなし

大人によって作られたルール、大人の都合、忙しさなど、阻む原因は大人が作る社会そのものが子どもの権利を阻んでいることがある。児童館職員として、社会の子どもを取り巻く現状を捉えて、子どもの権利を保障し実現していかなくてはいけない。子どもの権利を保障していくためには、私たちの権利も保障してほしいという声を上げていいと思う。その姿を見て子ども達が声を上げるということはすごくいいことだと実感し、そのような社会の循環を作れるといいと思う。

こども基本法第3条 子どもの基本原則

子ども達とどう関わればいいのか？という時に基本原則を基に関わっていかなくてはいけない。

基本原則（4原則）とは

“差別の禁止”

自分は誰に対しても公平であり、平等であるという意識を持っているか確認する。

“生命、生存、及び発達に対する権利”

危険だからやめなさいという言葉が子どもの育つ権利を奪っていないだろうかということ言葉を発する前に考えてみる。

“児童の最善の利益”

子どもにとって一番いい事は何かを考える。

“児童の意見の尊重”

すべての事を実現するときに子どもの声をちゃんと聴いていますか？というところがベースになっている。

5. 事例発表

**「永和児童館 館長
山田りかさん」**



永和児童館に勤務して7年半になるが、最初は折り紙一日3枚等、ルールが当たり前にあった。子ども達に問うと、ダメっていわれるからという返答で明確な理由はなかった。そこに疑問を持ち、児童館のルールの見直しを行った。認識のずれ、主張のぶつかり合いでトラブルは起きるがその都度、子ども同士で話し合い、大人も入って話し合う。小さいことから大きいことまで子ども達と話し合いをしながら今に至っている。

職員に子どもとの関わりの中で、気をつけてほしいと伝えていること。

子どもの気持ちをしっかり聴いてほしい。話し合いは時間もかかり、回数を重ねなければいけないこともある。でも、その手間や時間を惜しまない。大人の都合のいい方に子どもの意見を導かない。

子ども達が過ごしやすくなるような環境を整えられるよう過ごしている。

6. グループワーク②

子どもの基本原則（4原則）に基づいてはたして子ども達と関わっているか？自分の今までを振り返る。

テーマ：
『子どもの声を聴いて、
今できていること、
どうすると実現できるのか』

- ① 子どもの声
- ② 職員として
- ③ 児童館として

今の現状の情報共有をしてこれからの課題を考えてまとめる。

① 子どもの声

- ・ 飲食がしたい、スマホがしたい、ゲームがしたい。ボールをする場所がないという現状がある。

② 職員として

- ・ やらせたい気持ちがあるが、人手不足、場所の環境などがありできない現状がある。子どもの声を聞く事ができていないのではないか。
- ・ 話し合う事が大事だと思っても子どもが安心して話せる環境になってないのか、話の流れを誘導してしまう。
- ・ 職員の気持ちが同じ方向性に向かっていないといけないと思うが、一人一人の熱量が違いすぎているように感じる。
- ・ 子どもの意見を聞けないのは、結果的には大人が介入しすぎている事が課題だ。子どもと話しやすい関係をつくるには、職員が少しでも同じ気持ちを持ち、子どもと対話ができるかがとても大事だ。スキルアップがこれから必要なのではないか。

③ 児童館として

- ・ 「子ども会議」のお知らせを掲示板に掲示、その他の広報活動もSNSを使うなど工夫をする。
- ・ 上手く話ができない子どももいるので、意見を書いてポストに入れるように設置する。
- ・ 「子ども会議」をする場を設けて自分たちでルールを考えたり、意見を言える場を作っていく。
- ・ 人手不足や環境を整える上で、行政にもわかってもらうように連携が必要。



7. 講師のおはなし

子どもと対話をしているという事例や、子どもとの対話を通していろいろ解決しているという話し合いがたくさんあった。

事例として子どもの意見を尊重するということで、自分の意見を出す場がなく、自分の声を出せなかったが閉館音楽を投票制にし、意見を出してもらった。子どもの意見を出せる場を作ることを意識しているという館があった。

4原則、特に4番目の意見を尊重するということを意識しているように感じた。

子どものために良かれと思い、いろいろなルールを作っているところもあるかと思うが、どんどん改善していけるといいと思う。

子どもの権利をすべて実現は難しいが、対話をしながら乗り越えていく力がある事例を知っている。現在、子どもが自分の意見を言える力がまだ少ない。これからは子どもの意見を聞く事が求められる社会になる。児童館はその力をのばせるところでもある。日々の活動の中で職員が子どもの声を聞く力や子どもが対話する力を持てるようになってほしい。

行政職員の理解が低いという意見もあったが、地域のなかではできなくなっている現状なので児童館はモデルとなってほしい。行政には、子どもに代わって職員が伝えてわかってもらえるような改善を働きかけてほしい。児童館が大きな役割となっていくと思うので皆さんに期待している。

8. 担当者より

子どもの権利について考え、理解が深まった。子どもの話を聞いて、寄り添い、一緒に考えていくことが少しでも増えると、子どもに「楽しい、声を聴いてもらえる」といった気持ち生まれ、児童館を居心地のよい自分の居場所の一つとして感じてもらえるようになると思う。



出前じどうかんーあそびばー

内容

参加12団体、99名の出店者が力を合わせて、愛知県内の児童館でイチオシの遊びを来場者に提供しました。
あそびのブースには、身近な材料を使った工作や市町村の特産品・キャラクターを使った遊び、体力勝負の遊びなどがあり、来場者は様々な遊びを楽しみました。
また、あそびば企画として、「全ブースコンプリート☆ ～文字あつめ～」を行い、来場者が全ブースの遊びに参加してもらえるようにしました。

ブース出店団体

豊橋市交通児童館	KTJファミリンピック 「チャレンジタワー」…かわいく色付けした廃材の筒を時間内にどれだけ高く積み上げられるか。 「いろいろドーナツ」…ドーナツを時間内にどれだけ棒にさせるか。どちらのゲームも高得点をねらって楽しみました。
豊川市児童館	はちの巣ストラックアウト はちの巣に見立てた的に離れた場所からボールを投げ入れ得点を競いました。 参加後、段ボールホバークラフト・紙コップバスケット・牛乳パックホイッスルのうち1つを選んで作りました。
津島市中央児童館	牛乳パック万華鏡 牛乳パックと銀色折り紙を使い、A4紙に絵や模様を描いて万華鏡を作りました。
稲沢市児童館・児童センター	馬とびオセロ 決められた形(問題)にオセロの石を並べ隣の石を1つ飛び越え、飛び越えられた石を取って行きます。 オセロの石が最後の1つになったら大成功!!
尾張旭市9児童館	大型コロコロ迷路・変身マジック 大きな箱に障害物を設置し箱を持ちながらゴールを目指す遊びです。 いっしょに持った人と協力して楽しみました。
高浜市4児童センター	パタパタゲーム 長い筒の底をうちわであおいで紙風船を筒から出すことができれば大成功。 パタパタとうちわの音が鳴り響いていました。
北名古屋市児童館・児童センター・クラブ	紙皿UFO ボウリングのように、紙皿で作ったUFOでトイレトペーパーの芯の的を倒して遊びました。 紙皿の中にビー玉を入れることによりUFOのような変わった動きを楽しめます。
長久手市児童館	トモダチ ミッケ! 木の中からお気に入りの虫を1匹捕まえ、自己紹介カードを書く。 その後、会場内にいる指定の虫を持っている人に自己紹介カードを渡して交友を深める遊びです。
大治町児童センター	キャッチボールマシーン 紙皿と紙コップを使って、キャッチボールマシーンを作りました。 製作後は、実際に玉を飛ばして、遊びを楽しみました。
名古屋市児童館	〇〇をさがせ! お題のカードを選び、ボールプールの中からキーワード1文字ずつが書かれたボールを探す遊びです。 お題の文字数を変更することで難易度が調整できます。
犬山市児童センター	からだのしくみを知ろう! 体のしくみを展示資料で見て、ゲーム(肝臓の重さ当て・肛門から落ちてくるうんちをキャッチする遊び)や工作(ストローと袋で肺を作る遊び)を体験しながら学べる遊びです。
清須市8児童館	疾風きよす カードに書かれた言葉を組み合わせ、清須市にちなんだ場所や物の名前を作る遊びで、 一番早く手札を出し切った人が勝ちです。

次回開催に向けて

参加者・出店者からは、「楽しい遊びができた」「自分の遊びの引き出しが増えました」、「厚生員の情報交換の場やスキルアップに繋がった」「たくさんの人が遊びに来てくれて良かった」「学びの場・遊びの場になっていて良かった」などの声がありました。
ブース運営に関しては、「出店者向けのブースの説明が分かりやすかった」「ブースの広さが狭く感じた」「一般の来場者が少なく感じた」「事前準備のやりとりをもう少し早くから行いたい」など意見があり、次の開催に向けて、繋がられることや課題が見つけられました。また、全ブースを回ることを目的とした「文字集め」では、多くの方が参加いただき、出店者からも「このような工夫があって良かった」という声がありました。次回は、より多くの一般の参加者を募る工夫や今回のような各ブースを回れるような企画があっても良いと感じました。
児童館職員の交流の場、児童館という施設の発信の場の一つとして、反省を活かしながら、みんなが楽しめる『あそびば』になれば良いと思います。



バナナが目印です。ようこそ、あそびばへ！



どこのブースで遊ぼうかな？



タライの中のドーナッツを棒にどれだけさせるかな？



あっ倒れる！！せっかくな高く積み上げたのに…



やったー！はいった！！



「まず ここを折って…」



牛乳パックを使ったオリジナル万華鏡を真剣に製作中。



少し手伝ってもらって万華鏡作りに挑戦



コマをどう動かすか、試行錯誤中。
「あっ、ここだ！！」



皆、真剣です。出店者のチェックもキビシイ？



どのルートでゴールを目指そうかなあ



よ〜い ドン！



全部のピン倒すぞ～！



ベタベタベタ
自分だけのUFO完成に向けてあと少し！



時間内にボール見つけれられるかなあ？



かわいい虫をみつけた♪



自分の名刺作り♪
いろんな人と仲良くなりたいなあ。



はさみで切って、テープで貼って…。
大人も真剣に製作中。



手作りの「肺」に息をいれて、ふっー！



「五大栄養素」には、どんなものがあるんだろう？



真剣勝負！カードを早く出すぞ！！



大人も子どもも大賑わい！ 活気あふれるあそびばです。



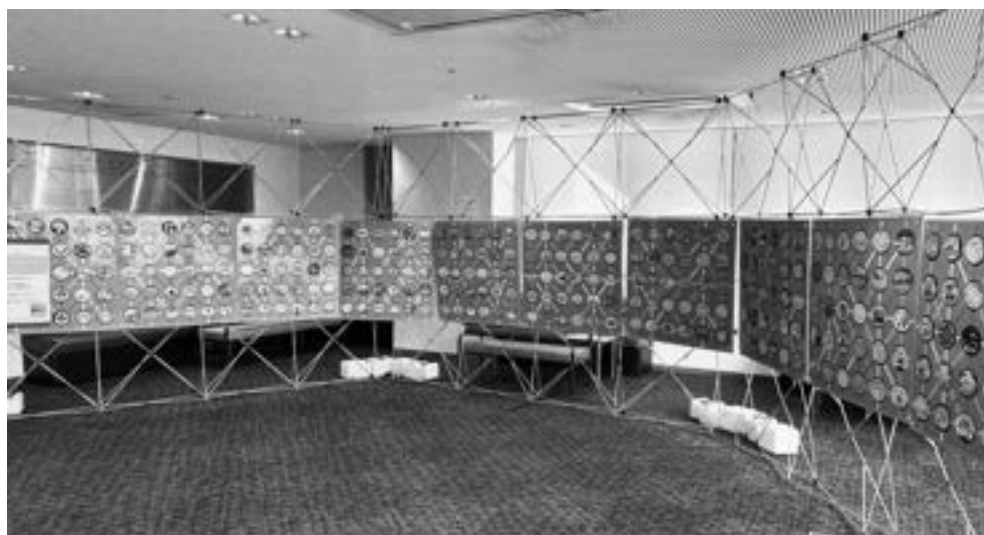
ブースを回って文字を集めると…



伝承遊びコーナー。皿回し、できた！

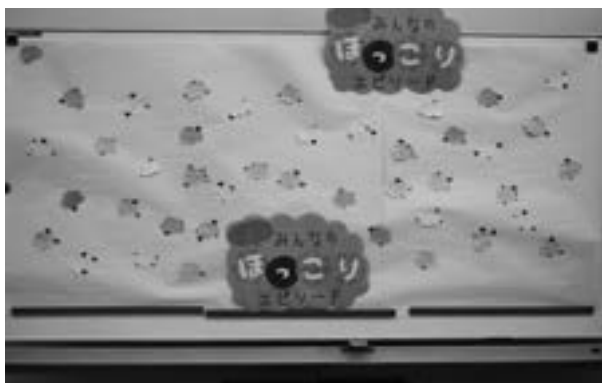
アピールカードとは

愛知県内の児童館・児童センターのアピールポイントをめいっぱい詰め込んだ丸いカードです。児童厚生員の皆さんに協力いただき、今年も熱い思いとやさしさがギュッと詰まったカードが集まりました。子どもたちの手作りの作品やそれぞれの児童館のHPなどのQRコードを載せたりと工夫を凝らしたカードが会場を彩りました。来場者は、自分の勤務する館、遊びに行く館のカードを探したり、一枚一枚じっくり鑑賞したりとそれぞれの観点で展示を楽しんでいました。



情報交換会

第13回目となる今回は、情報交換の場として“教えて！ほっこりエピソード”と題したエピソードボードを設置しました。皆さんが勤務する児童館・児童クラブで起こった、心がほっこりするエピソードを吹き出し形の付箋に書いてもらい、ハート型のシールで「いいね！」を表現するというものです。来館者との可愛いエピソードや思わず笑ってしまうエピソードに心がほっこりしました。「こういうこと、あるある！」などと言いながらハートのシールを貼っていく皆さんの姿も印象的でした。



その他に、“普段頑張っている皆さんにエールを”の思いを乗せて、エールカードの配布を行いました。参加者に受付でカードを配り、“仲間に向けたエール”を記入してもらい、会場内の2か所に設置したポストに投函。それを閉会式の会場入り口でランダムに配布しました。エールを胸に、仲間からの言葉と一緒に、明日からも頑張ろうと思ってもらえたなら嬉しいです。



■ 閉会式あいさつ

愛知県児童館連絡協議会
会長
村田 吉隆



本日、ご参加いただきました皆さま方、長時間にわたり、大変お疲れ様でした。
また、実行委員の皆さんにおかれましては、長い期間にわたってご尽力をいただき、本当にお疲れ様でした。

本大会は、開会式に始まり、西川先生の基調講演、3つの分科会、あそびばなど、盛りだくさんの素晴らしい大会になったと実感しております。

皆さん、誠にありがとうございました。

今日の経験や学んだこと、たくさんの方々とのネットワークを、是非、今後の児童館活動に活かしていただきたいと思います。

今日、ご参加いただきました、皆さまの今後のご活躍と県内の児童館の益々の発展をご祈念いたしまして、閉会のあいさつとさせていただきます。

未来宣言

子どもたちが未来の主役になるために、私たちがサポートします！
笑いあり、涙ありの毎日と一緒に楽しんで、彼らの成長を見守っていきます。
私たちの手で、未来をもっと楽しく、もっと素敵にしていきます！



実行委員会



		市 町 村	所 属	氏 名
実行委員長		愛知県	愛知県児童総合センター	矢倉 浩央
全体会部会		半田市	子ども未来部子ども育成課	森本 総一郎
		小牧市	北里児童館	平手 悠佳里
		東郷町	東郷町立北部児童館	佐藤 陽子
分科会	第1分科会	江南市	子育て支援課放課後児童支援グループ	大橋 潤一
		豊山町	しいの木児童センター	服部 加奈子
	第2分科会	瀬戸市	せとっ子ファミリー交流館	鈴木 奏美
		刈谷市	夢と学びの科学体験館	七條 俊一郎
	第3分科会	小牧市	小牧児童館	山田 知枝美
		大府市	石ヶ瀬児童老人福祉センター	彌勒 麻紀子
あそびば		西尾市	西尾市立中央児童館	尾崎 みゆき
		清須市	桃栄児童館	大島 央樹
		名古屋市	とだがわこどもランド	服部 流星
事務局		愛知県	愛知県児童総合センター	阪野 大介
		愛知県	愛知県児童総合センター	長塚 蘭実
		愛知県	愛知県児童総合センター	宮崎 恵梨
		愛知県	愛知県児童総合センター	海老澤 千佳
		愛知県	愛知県児童総合センター	堤 あかね
		愛知県	愛知県児童総合センター	坂井 利絵

第13回 元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかん
～みんなで今、アップデートしよう!～
report

2025年3月発行

編集・発行 〇 元気スイッチon!! あつまれ! あいちのじどうかん実行委員会

愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1

愛・地球博記念公園 愛知県児童総合センター内

TEL 0561-63-1110 FAX 0561-63-1116

<https://www.acc-aichi.org/>
